

学力向上推進地域事業 尾道市立美木中学校区 研究のまとめ



中学校区の学校それぞれで色々な取組をしているけど、系統性が見えなくて、なんだかチグハグな印象だな…。中学校の入学でまたゼロから指導をしていくのは時間がもったいないな。

あの子には何か支援が必要だとは思うけど、どんな機関にどうやって連携したらいいのかわからないから次の一歩が踏み出せない…

取組当初の教員の心の声

小中連携って言われても、どんな先生がいるのかわからない…。校種が違うと雰囲気も違うし、本音を言うと、やりづらいなあ。

いろいろな個別の指導計画があって、正直負担。作るだけで、活用できていない…。記録を残すことが大切なのは分かるけど、どうやって活用するの？

学習が課題なのか？生徒指導が課題なのか？分からないなあ…

若い先生も増えてきたし、校内で足並みをそろえるために研修するので手一杯。これ以上は難しい…

子供達の自己肯定感が低いのが気になるな。何とか自信をもってほしいけど、どんな取組ができるだろう。他校の子供達はどうかだろう。

こんな取組をしました

教科指導の工夫

学力を付ける取組

【小中学校で共通して取り組む内容を共有】

☆**授業づくりの系統性**
全国学力・学習状況調査の問題を分析し『読むこと』、『書くこと』、『表現すること』を中心とした授業研究を各校で行う。

☆**授業の型を統一**
導入→めあて→個人思考→集団思考→まとめ→振り返りの流れを統一

☆**ノート指導**
ノート指導の一環として中学生のノートを小学校の掲示コーナーに掲示



【家庭学習の指導】
☆けてぶれ学習法
け…計画
て…テスト（問題を解く）
ぶ…分析
れ…練習（間違えた問題復習）

～児童の声～
○自分の苦手なことをどんな風に解決していったらいいか考えられるようになりました。
○学び方が身につけてきたように思います。

生徒指導の工夫

育てたい姿を系統付け・可視化

☆**Can do list**
→ 授業や学校生活の基本となる中学校区で統一した指導
(中学校入学時から指導が継続できる。)
可視化・スリム化 → 実働化
朝や帰りの会・朝や帰りのHRでの点検活動

具体例	(一部抜粋) (全体は、学校HPへ)
自主・自立【自己理解】	
小1～小4	自分の長所(よいところ)がわかる。
小5～中1	自分の長所がわかり、それを伸ばそうとしている。
中2, 中3	自分を客観視し、自らを律し、主体的に行動できる。
勤労・奉仕【美化活動】	
小1～小4	友達と協力して、進んでそうじができる。
小5～中3	勤労の尊さ意義を理解して、社会を意識しながら、奉仕の心を持ち、進んで、美化活動や清掃活動などの仕事が主体的にできる。

小中連携

【児童生徒】
☆卒業生からのおすすめ本紹介
☆児童会・生徒会交流(学期に1回, 年3回)
↓
他校の良い取組を児童生徒が真似て、自校への取組へ
例) NIEタイム…新聞を使った帯タイム
ありがとうの花…児童同士が感謝の気持ちを伝えるために、ミニカードに思いを書き、交流する活動
カード交流の活動
自主ノートの取組…中学生のノートが小学生の見本に!

～児童生徒の声～
○他校の活動を知って、自分の学校でも真似してみたい。
○中学生の司会を見て、意見が言えていない人をきちんと見て話を振っていてすごいと思った。自分もこうなりたいと思った。
○小学生にもっと分かりやすいことばで説明するとよかったです。
○自分がいた3年前にはなかった活動をしていて、年々進化しているんだと思った。また、小学校で同じようにNIEに取り組んでいるので、相違点など探してみようと思った。

【教職員】
☆学校図書館を活用した授業研究の交流
☆3校合同ビブリオバトル研修(職員自身も体験!)
☆定期的な授業参観(中から小へ, 小から中へ)
☆授業参観後には、『授業の報告』を渡す
☆それぞれの学校の校内研修に参加

～先生たちの声～
○普段の授業をみることで、生の児童生徒の様子が分かりやすい。
○児童生徒との交流も出来、進学した際の安心感にもつながった。
○異校種間の違いや取り入れたいことなどヒントになった。
○学年ごとの積み重ねが分かる。
○既習事項の復習や中学校で習うことの筋道を立てやすくなった。
○校区内の先生たちとの意見交流が活発になり、児童生徒の情報交換も効率的になった。
○9年間の系統性を意識することが大切だと実感できた。
○小学校の学習の流れをもう少し取り入れていくことも必要だと感じた。
○中学校の高度な内容の授業のためにも基礎を意識していきたいと改めて感じるようになった。

家庭教育支援アドバイザー(AD)の活用

【取組】
学期毎に、ADを交えて全学級担任で「ミニケース会議」を実施し、児童生徒理解・保護者理解の方法・支援の仕方等の協議、教職員との面談、家庭訪問・学校で児童生徒・保護者との面談、関係機関との連携をした。

【具体例】
まず、担任の先生と児童生徒との信頼関係を高めよう。保護者の次に近い大人である担任の先生も生き方のモデルの役割を担ってあげたらいいですよ！家庭には良いことをしっかり伝えて、家庭でも褒めてもらいましょう。そうすることで本人の家庭での居心地が良くなり、落ち着くはずですよ。

【取組後】
事例1
○休憩時間は意識的に児童との会話を増やし、信頼関係を高めながら指導することで、児童に、やるべきことはきちんとしよう、という意識が生まれた。少しでもできたことを家庭でも褒めてもらうことで家庭内の人間関係も円滑になった。
○家庭学習をすることで自分に自信が持てるようになり、自分から話しかけられるようになることで交友関係が広がった。明るい表情で学校生活が送れるようになった。
事例2
○個別の指導計画をもとに、適切に接することで落ち着いて学習に取り組めるようになった。なんと!!2学期の単元テストでは、100点が2枚も!! 自己肯定感も向上!

主体性を高める

○行事(尾道みなと祭・体育大会・文化発表会等)後に、頑張った人やその理由を振り返りに書き、書いた文章は保護者や生徒に伝え、生徒の良いところを積極的に評価した。
○児童会が主体となり、学校をよりよくする取組を企画・発信した。児童集会で手本を示したり、進んで挨拶できた児童を児童会が表彰したりした。
○児童会を中心とした、自分達の生活をよりよくするための自治活動を実施した。毎月、児童会と各委員会がコラボし、生活目標に対する取組を工夫したり、委員会が主体となりクリスマス会等を企画した。

重点を絞った指導

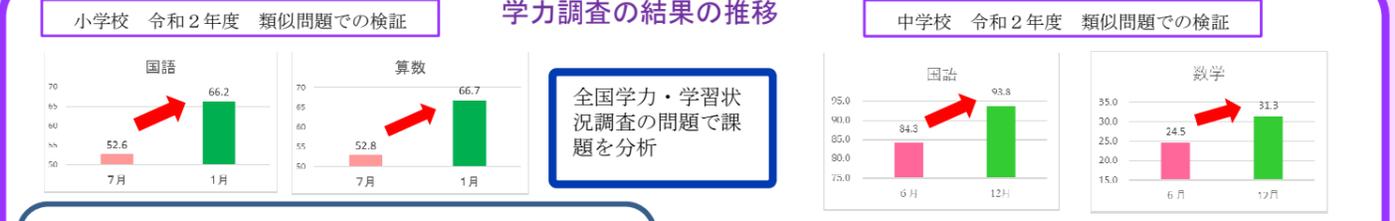
【中学校】(授業改善)
☆「書くこと」の指導
→条件を提示し、それを継続して行う。
条件の例: ①問われている内容を把握する。
②文体を統一する。
③一文を短くして伝えることをまとめる。
など
☆全国学力・学習状況調査から本校の課題を分析
例 【数学】
R2全国学力 冷蔵庫の総費用 } 日常生活と結びつける。
R3全国学力 紙パックの枚数 } 複数資料から必要な情報を取り出す。



学校図書館・新聞利活用の充実

☆学校司書を通した3校の取組統一
・情報交流、環境整備
・3校間での本の貸し借り
・「情報カード」の活用指導
☆学校図書館の充実・学校図書館を教科学習で活用
→国語科のみならず社会科や理科など様々な学習で学校図書館の資料を有効に使う授業の構築
☆新聞を活用した学習「NIEタイム」
→新聞の切り抜き記事をNIEノートに貼り、内容をまとめたり感想を書いたりする
→新聞を使った「発信する力」の育成
☆各新聞へのコンクール・投稿
・中国新聞ヤングスポット「みんなの新聞コンクール」
・読売KODOMO新聞「400字で言わせて」作文

学力調査の結果の推移



全国学力・学習状況調査の問題で課題を分析

【類似問題の分析】7月時に課題であった、複文を短文に分ける設問(国語)は+23.1pt、式の意味を考える設問(算数)は+21.8ptと、改善の様子が見られた。しかし、複数の情報を整理して記述したり、問われていることに正しく答えたりすることには、改善が見られるとはいえず課題が残っている。
【授業改善】「書く」が重点項目の一つであったことから、授業の「めあて」を吟味することで「まとめ」の質が上がり、「振り返り」に繋がったこと等を実践している児童が増え、それらを基に教師も授業改善につなげることができた。

①美術科でまとめた鑑賞文や作文を分析して国語科での指導に生かした。1年時の記述と今年の生徒の記述を比較すると、自分が感じた抽象的な感想を具体的に示すなどの変化が見られた。
②生徒の振り返りで、9月の平均文字数は約6.5文字であったが、その後12月には14文字まで上昇した。「〇〇が分かった」や「がんばりたい」だけの記述からキーワードを使った振り返りや解き方の方法を説明した振り返りが見られた。

取組を通しての教員の心の声

中学校区で授業スタイルを統一したり、職員合同で研修したりしたことで、小学校から中学校へ進学する時のギャップを軽減できたのでは!

ADのおかげで、家庭や専門機関とのつながりの作り方が分かってきた。3年間で学ばせて頂いたノウハウをこれからも伝えていきたい。

気になる子どもには、特に、チームとして、9年間を見通して関わっていくことが大切だな。

外部との連携ができたりすると効果的だな。
小学校の先生たちの授業の工夫を見習って、さらに生徒たちの興味を引き出していこう。
小中の先生で協力したら、もっと効率的に学力があがりそうだ。

